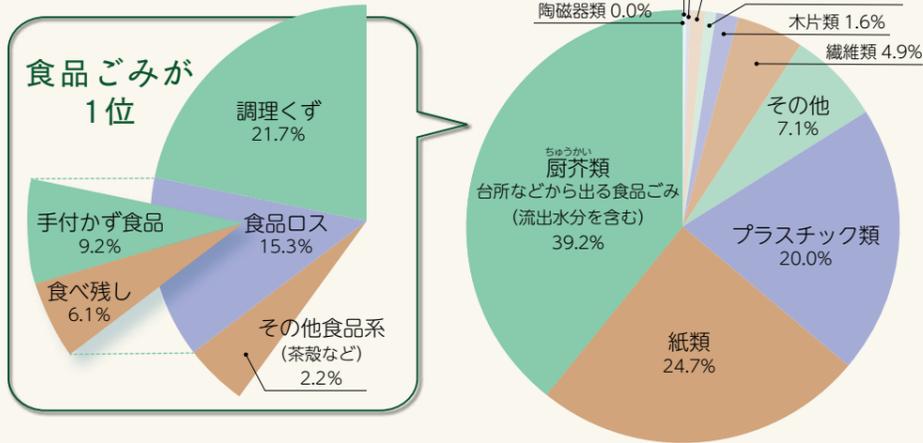


ごみの実情 燃焼ごみの 内訳※とゆくえ

※「吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画」内、燃焼ごみ組成調査結果(重量ベース)より。

食品ごみ、紙ごみ、プラスチックごみの順に多く出ているようです。具体的にそれぞれのごみがどのような流れで処分されているのか見てみましょう。



みんなが知らない ごみの話

環境政策室(TEL6384・1702 FAX6368・9900)

市では現在、年間11万2792トン*のごみが発生しています。10月は3R推進月間・食品ロス削減月間です。この機会に、ごみの実情を知り、ごみを減らすためにできることを考えてみませんか。

*「令和3年度(2021年度)ごみ処理実績表」内、ごみの総搬入量より。



詳しくはこちら

ごみを減らすための計画

市では、「吹田市第三次一般廃棄物処理基本計画」をつくりました。同計画では「MOTTAINAI」を基本理念に、さまざまな目標や取り組みを掲げています。その中から一部を紹介します。

ごみの年間総排出量

令和10年度目標 = 1081億2000万グラム **760グラム**
 令和3年度実績 = 1127億9200万グラム **816グラム**

市民1日1人当たり

重点的な取り組み

- 2R(リデュース・リユース)を優先したごみの減量
- 分別によるリサイクルの促進
- 食品ロス削減の促進
- プラスチックごみ削減の促進
- 三者共働(市民・事業者・行政)の推進



全国的に最終処分場はこのままのペースでわけており、あと20年ほどでいっぱいになるといわれています。



目標達成のためには、一人ひとりの協力が必要です。
 ごみを減らすために、わたしたちができることは？

紙ごみを減らすために

雑がみは資源ごみとして出そう

雑がみは、新聞、雑誌、段ボール、飲料用紙パック以外のリサイクルできる紙のことです。資源ごみとして分別して出すことで、新たな紙製品へと生まれ変わることができます。

雑がみの一例

ティッシュ・お菓子・マスクなどの紙箱、トイレットペーパー・ラップの芯、紙袋など。紙袋に入れて、出せます。



プラスチックごみを減らすために

マイボトルの活用

使い捨てプラスチックの削減のため、市の公共施設などにマイボトル用給水機を設置しています。マイボトルの活用に役立ててください。



詳しくはこちら

使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収

市の公共施設などに、回収ボックスを設置しています。捨てずに回収ボックスに入れることで文房具などにリサイクルされ、CO₂の削減にもつながります。



食品ごみを減らすために

てまえどり

購入してすぐ食べる場合は、棚の手前にある、販売期限の迫った商品を積極的に選びましょう。



フードドライブ

家庭で余っている食品を持ち寄り、まとめて子供食堂や福祉団体などに寄付する活動です。市役所が年に2回実施しているほか、スーパーなどの事業所も実施しています。



ローリングストック

ふだんの食品を少し多めに買い置きしておき、消費した分を買い足すことで、備蓄用を買うことなく、常に一定量の食品を備蓄できます。

